

<施設内研修使用資料> オムツ交換・排泄介助場面編

排泄・オムツ介助場面で なぜ感染対策が必要なのか

《標準予防策とは》

すべての人の①～④を感染の危険があるものとして取り扱う

- ①血液 ②体液、分泌物、排泄物（汗を除く） ③粘膜 ④傷がある皮膚

便等の排泄物には、病原体（※）が混入している可能性を考慮

※細菌：腸管出血性大腸菌、カビバクター、赤痢菌 等
ウイルス：ノロウイルス、アデノウイルス 等

<対策が必要な理由>

- ① 職員が『病原体の橋渡しをしない』ようにする
- ② 利用者、職員の双方を病原体から守る



出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

準備するもの



《防護具》

- ① 使い捨てプラスチック手袋
- ② 使い捨てビニールエプロン
- ③ サージカルマスク(必要に応じて)
- ④ アイシールド又はフェイスシールド(必要に応じて)

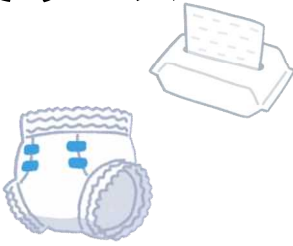
ポイント

オムツ交換や排泄介助時には、排泄物で手指や衣類が汚染される危険性があるため、①②を着用します。
大量の下痢や陰部洗浄を同時に行う場合は③④も着用します。

《排泄ケアに必要なもの(例)》

- 手指消毒剤 
- 交換用オムツ、パッド
- トイレットペーパー 
- 陰部洗浄用ボトル

- 1人1ボトルとし、共用しない
- 口の細い物は、ボトルの洗浄不良や乾燥不良となるため、口の太い物し、適切に管理する
- 使い捨ての紙コップでも代用可能

- 陰部清拭用使い捨てウエス(又はおしりふき)
- ゴミ袋等 

オムツ交換カートについて

オムツ交換カートを誤った方法で使用するにより、施設内で感染を拡大させる場合があります。自施設の方法を見直してみましょう！

- できる限り、オムツ交換カートは使用せず、利用者ごとに必要物品を準備して、ケアの都度、使用済みのオムツを廃棄する方法がよい。
- オムツ交換カートに積載するものを極力減らす
- 汚染物（使用済のオムツ・おしりふき等）と清潔なもの（未使用のオムツや手袋、防護具等）は交差したり、触れたりしないように分別
- アルコール手指消毒剤を用いてタイミングごとに手指消毒
- 使用後のカートは見える汚れを除去した後に、環境クロス又は適切な消毒効果のあるもので拭く（下痢症状者がいる場合は次亜塩素酸ナトリウム※を使用）
- 汚染の可能性のある場所（トイレや汚物室等）でのカートの保管は禁止（保管場所例：倉庫等）

※注意※

『次亜塩素酸ナトリウム』と『次亜塩素酸水』とはまったく異なる物質ですので、混同しないようにしましょう。（介護現場における感染対策の手引き第3版P146）

オムツ交換カートの 具体例

オムツ交換カートは、**原則 使用しない**ようにしましょう

(推奨方法：利用者ごとに必要物品を準備し、ケアの都度、使用済みのオムツを廃棄する)
ただし、施設事情等でやむを得ず使用する場合は下記を参考にしましょう

《感染症専門医の助言を受けて改善した例》 写真提供：公益社団法人地域医療振興協会伊豆今井浜病院

×改善前



カートの上段・下段で『清潔』『不潔』を区切り、最上段に使用前PPEと手指消毒液、中段に使用前陰部洗浄ボトル、最下段に使用后陰部洗浄ボトルを置く。横にはビニール袋を設置。

○改善後



カート全体を『不潔』エリアとする。
PPEやビニール袋は居室前に設置の上、すべて撤去した。
(清潔カートは別に用意し、使用後の物品やゴミ等は清潔カートには載せない)

手順・注意すべきポイント (オムツ交換)

順序	手順	ポイント
1	手指衛生	<ul style="list-style-type: none"> 職員が病原体の橋渡しをしないよう<u>手指衛生は必ず行う</u> 別の作業中にオムツ交換に呼ばれた場合、着用している手袋は必ず外し、手指衛生をして新しい手袋へ交換する 手指消毒剤は必要量（消毒の一連の流れの間に乾いてしまわない量）をとり、乾くまですりこむ

《手指消毒の方法》 出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料



①手指消毒剤をとる



②手の平と手の平をこすり合わせる



③指先、指の背をもう片方の手の平でこする（左右）



④手の甲をもう片方の手の平でこする（左右）



⑦左右の手首を包み込むようにこする（左右）



⑥親指をもう片方の手で包みねじりこする（左右）
親指の付け根も意識する



⑤指を組んで両手の指の間をこする

出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

手順・注意すべきポイント (オムツ交換)



順序	手順	ポイント
2	準備	<p>① 利用者への声かけ</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションがとりにくい利用者であっても今からオムツ交換をすることを説明し、安心感につなげる <p>② 環境整備（プライバシーの保護）</p> <ul style="list-style-type: none"> 室温に留意する カーテンやドアを閉め（ドアを閉められない場合は、入り口からベッド上が見えないように衝立を置く等）、プライバシーに留意する <p>③ 使用する物品のみを手の届く範囲かつ利用者の視線に入らない場所に配置する</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用済みのオムツを入れるビニール袋は口を大きく広げて置いておく
3	防護具着用	防護具は利用者ごとに交換（P7参照）
①	手指衛生	装着前に手指衛生を行う 「汚染したかも」と思った場合は、そのつど石けんと流水による手洗いを行う
②	使い捨てエプロン	
③	サージカルマスク	
(※)	アイシールド (又はフェイスシールド)	下痢等、排泄物が目に入る恐れがある場合
④	使い捨て手袋	<u>2重手袋はしない</u> （着脱時に汚染する可能性が高いため）

防護具の着用

①手指消毒



手指消毒をする

②エプロン



エプロンを首にかける



紐を後ろで結ぶ



体を覆うように広げる

③マスク



ゴムを耳にかける

⑤手袋

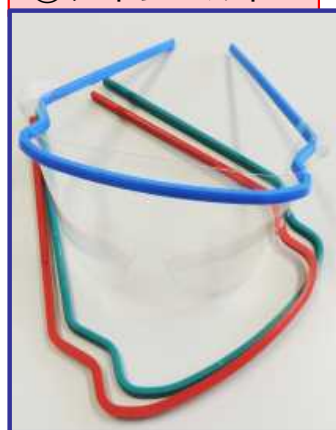


完成



手袋をつける

④アイシールド



メガネを着用している場合はその上から着用



顎まで覆う



ノーズフィッターを頬と鼻にフィットさせる

出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

手順・注意すべきポイント (オムツ交換)



順序	手順	ポイント
4	オムツ交換	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 作業を通してこまめに声かけをし、配慮する ◆ 入浴前にオムツを外した場合、排泄物の付着がないか確認する <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>重要! 入浴介助の前に利用者の陰部・臀部に目に見える汚れ（排泄物の付着）があれば、汚れを取り除いてから入浴して頂きましょう</p> </div> <p>(1)オムツを外す</p> <p>(2)排泄量物の状態や陰部の皮膚の状態を確認</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>排泄物の状態や陰部の皮膚の状態を観察することにより、胃腸炎や尿路感染症等の<u>感染の兆候や皮膚の炎症(褥瘡等)</u>を知る</p> </div> <p>(3)湯の温度を確認し、陰部洗浄(おしり拭きを使用する場合も注意事項は同様)</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> • 尿道口等への病原体の侵入による起こる逆行性感染（尿路感染症、膣炎、外陰炎等）を予防するため、<u>尿道口(汚染が少ない)→(膣口)→肛門(汚染が多い)の順で洗う</u> • 石けんを使用する場合：皮膚トラブルを予防するため<u>石けん成分を十分に洗い流す</u> • 水分が残った状態は細菌が繁殖しやすくなるため、<u>水気を拭き取る</u> • 傷つきやすい皮膚部分なので、ゴシゴシ拭きではなく<u>押し拭き</u> </div>

手順・注意すべきポイント (オムツ交換)



順序	手順	ポイント
4	オムツ交換	<p>(4)使用済みオムツは汚染面を中にして折り込む</p> <p>(5)側臥位にし臀部を洗浄する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • 汚染が少ない上臀部→下臀部→臀裂の順に清拭 • 石けんや湯を使用する場合の注意点は(3)と同様 </div> <p>(6)使用したオムツを内側を中にして折り込みながら外す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> • 使用済みオムツを床やベッド上、カート上等に直接置かない • <u>使用済みオムツを持ったまま、動き回らない</u> • 下痢症状が認められる場合は、一人ずつビニール袋に入れる </div> <p>(7)使用済みオムツは、すぐに口を広げた状態のビニール袋へ入れる</p>

手順・注意すべきポイント (オムツ交換)



順序	手順	ポイント
4	オムツ交換	<p>(8)手袋を外し、<u>手指衛生をした後に、新しい手袋を着用する</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> • 排泄物が付着した手袋を着用した手で未使用のオムツに触れることで未使用のオムツにも病原体が付着し、汚染される可能性があるため、必ず手指衛生・手袋交換を行う • 使用した手袋は使用済みオムツと一緒にビニール袋に入れ、ビニール袋の内側に触れないよう口を結ぶ </div> <p>(9)新しいオムツをあて、オムツの中央にずれがないように注意しながら仰臥位に戻す</p> <p>(10)オムツの立体ギャザー部分を外に立て、肌に密着するようにし、テープを止める</p> <p>(11)最後に寝衣を整える</p>

手順・注意すべきポイント (オムツ交換)



順序	手順	ポイント
5	防護具脱衣	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ケアが終わったらすぐに脱衣</u> ・ <u>利用者ごとに防護具は交換</u>
①	使い捨て手袋	<u>手袋が一番汚染されているため、最初に外す</u> (P12参照)
②	使い捨てエプロン	(P12参照)
③	アイシールド (又はフェイスシールド)	
④	サージカルマスク	(P13参照)
⑤	手指衛生 (手洗い)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>原則、排泄ケア後はそのつど、石けんと流水による手洗いを行う</u> ・ <u>特に便処理をした場合、必ず石けんと流水による手洗いを実施</u> (P14参照)

防護具の脱衣方法

①手袋：表面「汚染面」／裏側「非汚染面」



手首部分をつかみ
裏返すように外す



外した手袋をにぎる



反対側の手袋と手首
の間に指を差し込む



裏返すように外す

②エプロン：表面「汚染面」／裏側・後ろ「非汚染面」



首の後ろ部分を
ちぎる



汚染面に触れない
ように前に下ろす



後ろ側から裾を
すくい上げる



汚染面が内側になる
ように腰まで丸める



前に引っ張り
腰ひもを引きちぎる

防護具の脱衣方法

④マスク：表面・裏面「汚染面」／ゴム「非汚染面」



ゴムの部分をつかみ表面に触れないように静かに外す

出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料

流水下での手洗い方法

- ◆ 固形石けんには細菌やごみなどが付着する可能性が高いため、液体石けんや泡石けんを使用する
- ◆ 泡が汚れを落とすため、手洗いは十分な泡立てが必要
(石けんの量が不足していると泡立たないため、十分な量の石鹸を取る)



流水で予洗い
※手を十分に濡らす



①石鹸を手の平にとり、手の平をこすり合わせる



②手の甲、指の間をもう片方の手の平でこすり洗う



③指を組んで両手の指の間をもみ洗い
親指の付け根を意識しながら親指を包みねじり洗いする



重要!



④指先、爪の周りをもう片方の手の平にこすりつけて洗う



⑤内側・側面・外側を回転させながら手首をこすり洗う

①～⑤を
15秒以上



⑥流水でよくすすぎ、水分を押さえ拭く



流水15秒以上

泡が汚れを落とすため、十分な泡立てが必要で必要な量の石鹸を取りましょう

手順・注意すべきポイント (オムツ交換)



順序	手順	ポイント
6	終了の声かけ	
7	居室を整える	カーテンやドア等を元に戻す

手順・注意すべきポイント (トイレでの排泄介助)

順序	手順	ポイント
1	手指衛生	<ul style="list-style-type: none"> 職員が病原体の橋渡しをしないよう<u>手指衛生は必ず行う</u> 別の作業中にオムツ交換に呼ばれた場合、着用している手袋は必ず外し、手指衛生をして新しい手袋へ交換する 手指消毒剤は必要量（消毒の一連の流れの間に乾いてしまわない量）をとり、乾くまで擦りこむ

《手指消毒の方法》 出典：令和5年度『福祉・介護施設職員向け感染症対策研修』ケア実践者向け研修資料



①手指消毒剤をとる



②手の平と手の平をこすり合わせる



③指先、指の背をもう片方の手の平でこする（左右）



④手の甲をもう片方の手の平でこする（左右）



⑦左右の手首を包み込むようにこする（左右）



⑥親指をもう片方の手で包みねじりこする（左右）
親指の付け根も意識する



⑤指を組んで両手の指の間をこする

手順・注意すべきポイント (トイレでの排泄介助)



順序	手順	ポイント
2	防護具着用	P 7 参照
3	トイレでの排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の介助は利用者ごとに<u>手指衛生・防護具を替えて介助を行う</u> ・使用する分の新しいオムツを個室内に持ち込む <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>トイレの個室に未使用のオムツを保管しない！ 個室には目には見えないが、<u>排泄物や汚水等の飛沫が周囲に飛んで汚染されている</u>ため、未使用のオムツを置いておくことで未使用のオムツにも病原体が付着し、汚染される可能性がある。未使用のオムツは倉庫等に保管する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・外した使用済みオムツは<u>すぐに排泄物用のゴミ袋へ捨てる</u> <ul style="list-style-type: none"> ・床やベッド上、カート上等に<u>直接置かない</u> ・下痢症状が認められる場合は、一人ずつビニール袋に入れる ・新しいオムツに触れる場合は、使用していた手袋を外し、<u>手指衛生をした後に、新しい手袋を着用してから触れる</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>排泄物が付着した手袋を着用した手で未使用のオムツに触れることで、未使用のオムツにも病原体が付着し、汚染される可能性があるため、必ず手指衛生・手袋交換を行う</p> </div>

手順・注意すべきポイント (トイレでの排泄介助)



順序	手順	ポイント
4	防護具脱衣	<ul style="list-style-type: none">・ケアが終わったら<u>すぐに脱衣</u>（脱衣順番はP12、13参照）・利用者ごとに防護具は交換・<u>原則、排泄ケア後はそのつど、石けんと流水による手洗いを行う</u>・<u>特に便処理をした場合、必ず石けんと流水による手洗いを実施</u>（P14参照）

まとめ

- 排泄物を扱う場面では、胃腸炎などを引き起こす**病原体が（介助者自身に）付着する可能性が高いことを意識**しましょう
- 職員が**病原体の橋渡しをしないよう意識**しましょう
- オムツ交換、排泄介助の**前後には必ず手洗い・手指消毒**をしましょう
- **利用者ごと防護具を交換**しましょう
- 清潔なものと不潔なものを取り扱うエリアを分けましょう